

「不安でたまらなかった時、あなたのやわらかな笑顔に救われました」

乳がんで妻を亡くされた K さん。存命中、放射線治療の副作用で食道に流動物が通りにくくなり、食べられるものに苦労していた時、患者相談支援センターにいた T 看護師長から栄養補助食品やお店の情報までについて具体的にアドバイスを受けたことが、たいへん有り難かったと語ります。

「主治医の先生から、あなたのがんは完治しませんと言われ、どういう心持ちで過ごせばいいか相談した時、やわらかな笑顔で、「安心してください。長く一緒に生きればいいんです。いわゆる普段の生活を続けられればいいですよ」と言ってくれたことで、安心した気持ちになれたことをよく覚えています。」

もう治らないと宣告され、気持ちがどん底に落ち込んだ時に、普段通りでいいと言ってもらえた。その他にもいろんなデータを持って相談に行った時にも、的確にアドバイスをもらえた。そうしたことが有り難く感謝の限りであり、決して忘れることのない大切な思い出だと話します。

こうした経験から、妻が他界した後、Kさんはがんに関するボランティア活動に取り組み、がん患者はもちろん、身近で支える人たちの相談にものりたいと語っています。